

チャート塾実戦編

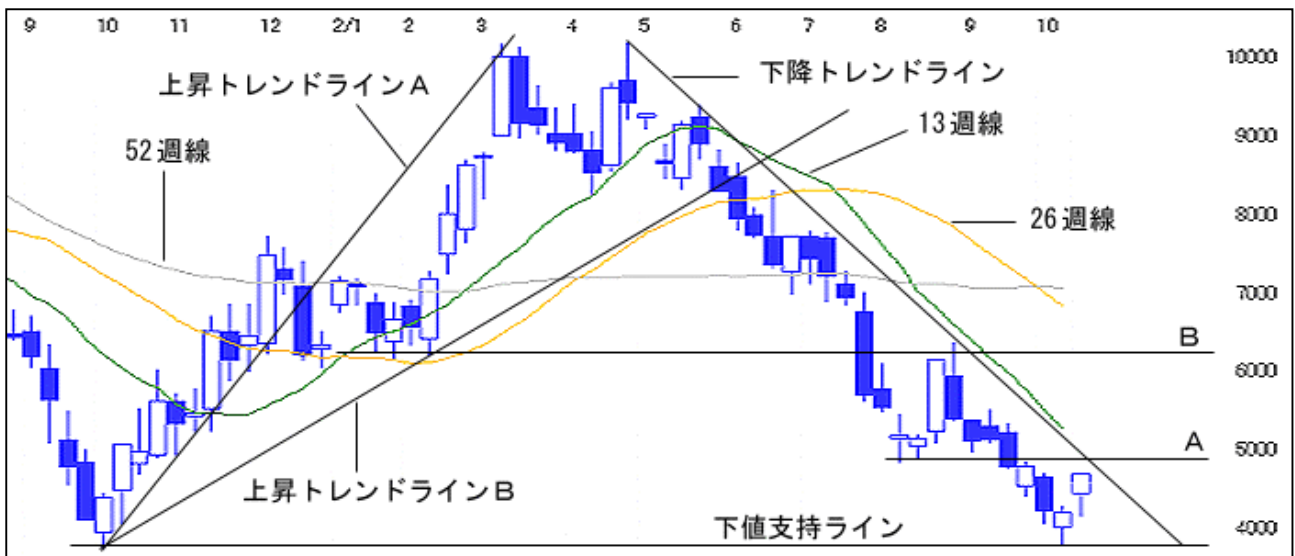
第2回 8035 東京エレクトロン

電子製品商社から出発。半導体・液晶製造装置メーカーとして国内で首位、世界では2位

【業績】	売上	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)	1株配(円)	1株株主資本
連02.3	417,825	-18,310	-19,464	-19,938	-113.9	8	1,757
連03.3予	453,000	5,000	3,000	2,000	11.4	8	
連04.3予	550,000	29,000	27,000	16,000	91.1	8~12	

まずは下の週足チャートをご覧ください。昨年10月から上昇に転じた株価も、今年の5月に13週線と26週線の2本線の間での動き（持ち株は全て売却して様子見が基本）を下げられて、更に上昇トレンドラインBをも下げた事から上昇トレンドは終了したと判断します。その後52週線付近で下げ渋りますが、結局52週線を下回った事で下降トレンドへ転換となり、その後一直線の下落となっています。そして、昨年10月安値と同水準まで下落して、現在リバウンド局面にあります。下降トレンドラインと上値抵抗線のAを突破出来るかどうか今後のポイントになります。突破出来れば上値抵抗線のB付近への上昇の可能性が出てきますが、26週線が52週線とデッドクロスして下降中ですので、Bライン付近まで上昇すればチャート分析の基本では戻り一服となって戻り売りの展開になると思われます。又下降トレンドラインと上値抵抗線のAを突破出来なければ再度下値支持線付近へ下落となり、下値支持線を下回った場合は一段安の可能性が出てきます。週足チャートからの中期的なトレンドとしては、現段階では下降トレンドでの戻り局面となりますので、暫くは下値支持線とA又はBラインの間でのボックス相場と考えた方が良いでしょう。そして、数ヶ月間も見合いを経て、13週線が上昇に転じてくれば本格上昇の可能性が出て来る事になります。

週足チャート

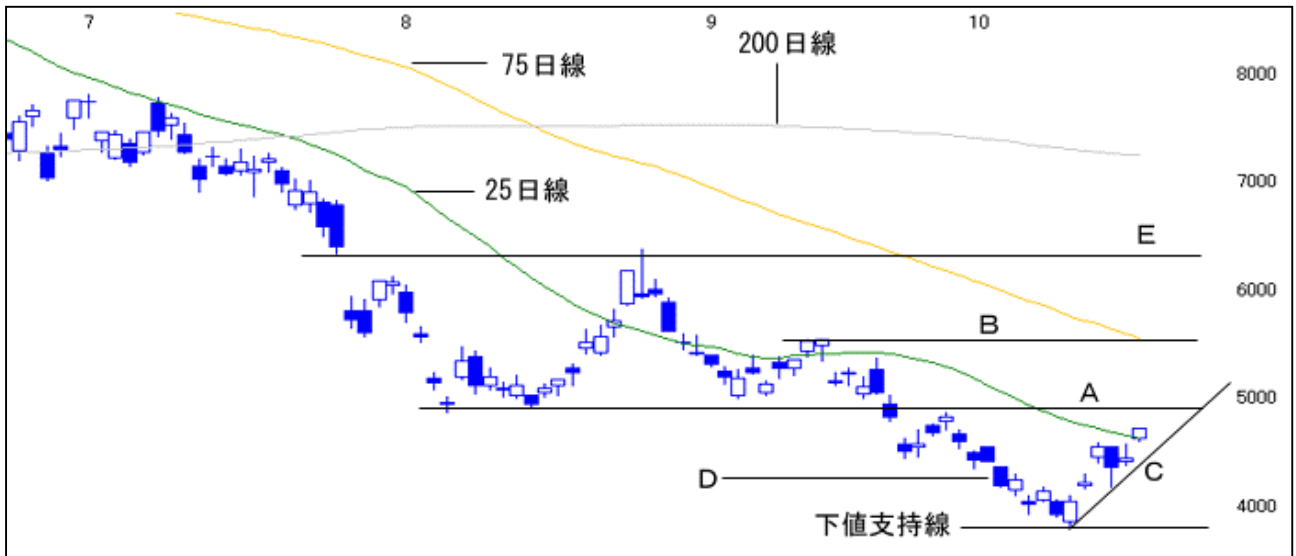


日足チャートからの短期見通し

東京エレクトロン株は現段階では下降トレンドに有りますので、基本的には売り方針で臨む事が基本と言えます。現在は底値圏で目先の相場転換を暗示するローソク足の出現（Dをスタートとする陰陽交互に6つで完成）後上昇に転じ、リバウンド局面にありますので、短期的には戻りを試す展開が続くと思われませんが、まずは、上値抵抗ラインAを突破できるかどうかポイントになります。Aラインを突破すればBラインが次の上値の目処となりますが、この水準には下降中の75日線も位置している事からチャート分析の基本ではここまで戻れば、戻り一服となる可能性が高いと思われれます。仮に好材料が出現して若干上ブレした場合はEライン付近まで上昇する可能性もありますが、この水準は週足チャートのBラインの水準に相当し、大きな上値抵抗ラインとなりますので、この水準を上抜くには暫く時間がかかると考えるのが基本と言えます。

チャートの短期の上昇トレンドラインCを維持している限りは上値を試す展開が続きますが、上値抵抗ラインAを突破出来ずに、上昇トレンドラインCを下回った場合は再度下値を試す展開になる可能性が出てきますので、その場合は注意が必要です。そして、下値支持線で止まれば下値支持線とAラインの間でのボックス相場となり、下値支持線で止まらなければ一段安の展開の可能性が高くなります。

日足チャート



この情報は2002年に有料コーナー内に掲載した情報です
ひとつのテキストとしてご覧下さい